

対岸の華事 中国WATCHING

Vol. 1 2010. 3. 9

在日中国人女性が外から祖国を見る

今月の TOPICS キーワード：春節、春運、春晚

長引く不況の影響で苦境にあえぐ日本経済とは対照的に、対岸の中国では景気のいい話ばかりが伝わってきています。

今回はちょうど「春節」にあたり、それに関するトピックを幾つか紹介してみたいと思います。

中国では正月を旧暦で祝うのが既に数千年以来の慣わしで、その前後の長期休暇を春節といいます。その際、かまどの神様を祭ることや、祖先への追憶など、家族団らんの食事をします。

日付が変わる頃には「除夜の鐘」よりも「爆竹の激しい爆発音」が町中に轟きます。元日には日本同様、人々が互いに新年の挨拶を交わし、酒を飲み、年糕（ネンコウ、中国の餅）や餃子を食べます。子供たちには嬉しいお年玉が配られます。

また、旧年を送り新年を迎え、厄病を追い払い、新しい年の五穀豊穰を祈願する意味で、獅子舞や灯籠大会などのイベントも盛大に開催されます。

故に、中国人にとって春節は一年中最も重要な祭日となり、消費の最盛期でもあります。

伝統と舶来がかち合う日

今年は2月14日が旧正月の初日となり、西洋のバレンタインデー（中国語では情人節と言う）と重なりました。家族を取るか、恋人を取るかなどで、一大論争が巻き起こっていたそうです。ネット調査の結果では、九割の人が家族と過ごすことを表明しています。

花火メーカーもこれを意識して、バレンタインデー仕様の正月花火を市場に打ち出しました。経済の好調と合わせて、今年は去年より三割増の販売額が見込まれています。

その反面、花屋さんは例年ほどバラの売れ行きが芳しくないのではと気を揉んでいたそうです。何故なら、近年中国ではバレンタインデーに、男性がバラを添えて女性に贈り物しなければならない風潮になっています。

因みに、中国伝統の情人節は日本でもお馴染みの七夕（勿論旧暦の）です。

25億人の民族大移動

年に一番大切な休暇を家族と過ごすため、普段故郷を離れ東部沿海地域に出稼ぎに出ている農民工や、親元を離れ勉強に励む大学生なども一斉に帰省するものなので、短期間に全人口の約3分の1が移動する「春運」を引き起こします。

春節前の予測では、40日の春運期間中、中国全土の総人口を超える延べ25億人が東西南北を大移動すると報じられていました。休暇直後の鉄道統計には、去年同期比10.6%増の1億9200万人を輸送したとの過去最高の人数が記録されました。

これまでの春運に伴うパニックを改善するため、今年初めて列車の切符にも記名するシステムになったものの、期待していた効果には至らず、例年の如く全土で混乱が見られ、人々の不満が高まっていました。

また、今年バイクで集団帰郷することがブームとなり、沿道には警察が護衛に出動する光景も見られました。

その一方で、4000万円をかけて自家用ヘリで上海から福建省に帰省した不動産会社の会長が注目を集めていました。

CM料金10秒間5201万円（約6億8000万円）

大晦日の夜、一家揃って食事しながら、「春節聯歡晩会」（春晚）を見るのも恒例になっています。いわゆる中国版の年越し紅白特番で、夜8時から年を越して深夜1時まで、歌や京劇、漫才、寸劇、踊り、雑技など演目が5時間にわたり生放送されます。

世界各地にいる華僑なども含め、総視聴人口13億人以上で、昨年の視聴率は95.6%にも上ったといわれています。言うまでもなく、同番組に出演することが中華圏における一流芸能人の証しでもあります。因みに、今年は結婚・出産で歌手活動を中止していた日本でもお馴染みの歌手フェイ・ウォンが同番組で活動再開を果たしていました。

毎年高視聴率を叩き出しているため、広告収入も年々鰻登りと続いて：02年は約2億元（約26億円）、06年は約4億元（約52億円）、09年は約5億元（約65億円）、今年は30%増の6億5000万元に達する見込みです。その中、2010年春晚最も人気の高い演目の命名権料金と午前零時を告げる10秒間のCM料金、それぞれ1億1099万元と5201万元で落札され、ともに過去最高記録となりました。



春節特需の海外波及



伝統を大事にする人たちの帰省ラッシュ——春運が起きる一方、海外に脱出して休暇を楽しむ新貴族たちも年々増えています。春節に家族で海外旅行がブームとなり、遠くはヨーロッパやアメリカ、またはオーストラリア、ニュージーランド、そして一番近い日本は特に人気を集めているとのことでした。

去年中国で大ヒットした映画「非誠勿擾」（興行成績はかの大作「レッドクリフ」を遥かに超えたそうです）は北海道ロケシーンがふんだんに使われたため、中国全土で北海道ブーム、即ち日本旅行ブームに拍車をかけていたようです。

また、今年「旧正月を日本で過ごそう」というツアーが初めて企画され、北京・上海・広州などから2000人あまりの参加者が集まりました。

ここ数年、日本への外国人観光客数は減り続けていますが、中国からの観光客だけは増加しています。北海道はもちろん、銀座、秋葉原への“買い物ツアー”では数十万から数百万円の買い物をする富裕層が闊歩しています。

不況によって、デパートも観光業界も悪戦苦闘している中、「春節」特需は日本人にとっても、重要な景気トピックになりそうです。

